

鳥取県知事 平井伸治 様

本日、淀江産業廃棄物管理型最終処分場計画に関する専門家会議を傍聴しました。

この会議は、産廃計画に関しての周辺住民のいろいろな疑問点について、様々な立場の専門家が科学的見地から議論の場を設けることにより、その疑問点を解消しようとするためのものであると理解していました。

しかしながら、本日の会議を「傍聴」して、失望の念を禁じ得ません。

まず、わずか4人の委員で構成される会議であるにもかかわらず一人が欠席ということが開かれています。

その一人の方は、住民側が推薦して、その方を含めた議論が聞きたいとしていた方です。

なぜ、一人の方の都合が悪いにもかかわらず、本日の会議を設定したのですか？

また、本日の会合は、「会議」と言えるものではなく、単なる「説明会」に過ぎませんでした。

私は、あくまでも、「産廃計画に関しての周辺住民のいろいろな疑問点について、様々な立場の専門家が科学的見地からの議論」を、傍聴するために来たのです。専門家の間で、そのような議論は一切なされませんでした。

もし、専門家による、住民に対しての説明会として開催するならば

- 1.事前の告知を、期間をかけて十分にすべき
- 2.資料は、事前に配布すべき
- 3.直接やりとりできる質疑応答の時間を、十分に設けるべき

です。

今日の会議の進行では、私たちを傍聴者と位置づけ、発言は一切許さないまま、一方的に話を聞かせる会に過ぎませんでした。

このような会を開いても、この産廃問題の様々な住民の疑問点を解消することはできません。

改めて、この計画に対して、住民が不安に思っている事柄・課題について、いろいろな立場の専門家の中の議論の場を設けることを要望いたします。